



翔空祭まであと1週間となり、準備や練習に熱が入ってきました。昨年度とは違い、オープニングからエンディングまで、生徒たちの活躍する姿がご覧になれますので、22日(土)はぜひご来校いただければと思います。なお、受付で確認しますが、風邪症状のある方はご入場できませんので、ご了承下さい。

特集

## 中学生の叱り方

子どもから大人へと移り変わる中学生の時期は、精神的に不安定になりやすい傾向があります。この時期のお子さまを叱る場面では反発を招きやすく、親子関係がこじれやすいので細心の注意が必要です。

### 「大人と子ども」ではなく「大人と大人」の親子関係を築こう

小学生の頃は、保護者のかたが「勉強しなさい!」「早く用意しなさい!」などと一喝すると、渋々といった態度かもしれませんが、比較的素直に聞いてくれることが多かったでしょう。しかし、中学生くらいになって自我が強くなると、無条件には従わなくなります。誰が聞いても保護者の言うことが正しい時さえ、反発されるケースもあるでしょう。そういう時に「正論」だからといって、押し通しても意味がありません。お子さまは、大人になろうと必死にもがいている状態です。徐々に「大人と大人」の関係を構築するべき時期が来たとお考えください。

### 大人扱いをすると、「自立心」が芽生える

もちろん、中学生なので考えが足りず、「まだまだ子どもだ」と感じることも多いでしょう。ですから、あらゆる場面で「対等」に接する必要はありません。例えば、保護者のかたが叱って屁理屈を返された時、対等に言い返すと、どんどん口論がエスカレートします。ここは保護者が一歩引いて、「そうね。あなたの言うことも一理あるね」と一旦話を受け入れたうえで、「ただ、私はこう思うよ」と感情的にならずに伝えると、お子さまの心に届きやすくなるでしょう。そのように大人扱いをすると、お子さまは自分の行動には自分が責任を持たなければならないと意識するようになるでしょう。

### 必要な場面では「一喝」することも大切!

もっとも、保護者も聖人ではありませんから、イライラした気持ちが募ることもあるでしょう。どうしても怒りの感情が止まらない時は、「そうやってダラダラしている姿を見てみると、すごくイライラしちゃう」などと気持ちをストレートに伝えてもいいでしょう。「～しなさい」とくどくどと叱るのでなく、あくまでどう感じるかを端的に伝えてみるのがポイント。ただし、お子さまが絶対にしてはならないことをした場合は、厳しく叱ることも必要です。友だちや相手の言動に影響されやすい時期なので、あまり深く考えずに周囲に流されて一緒に悪いことをする場合もあるでしょう。そういう時は、「だめなことはだめ」と断固として譲らずに禁止してください。お子さまが禁止の理由を理解していない場合は、しっかりと説明しましょう。普段からお子さまを大人扱いし、感情的に叱ることをしないからこそ、信頼関係が構築され、こういう場面での一喝がお子さまの心に響くのです。

### まとめ & 実践 TIPS

お子さまの自立心の芽生えを阻害しないように「大人と大人」として接し、お子さまを責任ある大人として扱うようにしてみてください。大人として接するからこそ、お子さまの責任感と自立心は育つうえ、いざというときの保護者の言葉が心に届くようになるでしょう。

(参考 <https://benesse.jp/kosodate/201602/20160203-2.html>)

日頃の子もたちの様子については、喜久田中 Web ページをご覧ください。  
<https://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=0720004>

